

司式 熊田雄二牧師

奏楽 藤井真衣姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 2:1 主のみいつとみさかえとを

主のみいつとみさかえとを 声の限り讃えて

またき愛と低き心 みぎにそなえひれふす アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 2:2 ゆだねまつるわが重荷を

ゆだねまつるわが重荷を 主はかわりておいたもう

悩み多き世の旅路も 主のいませばやすけし アーメン

共同の祈祷 祈祷書32 定期会員総会主日

教会のかしらイエス・キリストの父なる神さま、きょうは定期会員総会の日です。わたしたちがキリストの教会に、愛と奉仕と献げものにおいて最善を尽くすことができるように導いてください。わたしたちの願いや祈りを、わたしたちの無知による求めによってではなく、わたしたちの罪深さが要求することによってでもなく、ただ御心になんか受け入れてください。(マタイ6、1コリント8～9、「誓約」五)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 甲信地区伝道 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ローマの信徒への手紙12章1-2節 (新約聖書291頁)

説教・祈祷 「新しい出発に備える祈り」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 48:1 主よ終わりまで仕えまつらん

主よ終わりまで仕えまつらん みそば離れずおらせたまえ
世の闘いは激しくとも みはたのもとにおらせたまえ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあげさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65父・御子・御霊の

父・御子・御霊の大御神に

ときわにたえせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

I ローマ書 前半の終わりと後半の始まり

ローマ書前半の終わりは11:36です。「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように。アーメン」。後半の始まりは12:1です。「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます」と、勧めに入ります。パウロの手紙の典型的な組み立ては、前半が救いの恵み、後半が感謝の生活です。

「こういうわけで」とは、前半が救いの恵みであることを受けています。つまり、救いの恵みは、まったく神の憐れみによることですから、「神の憐れみによってあなたがたに勧めます」と言っているのです。

II 勧め

ローマ書は、11章までかけて、まずキリストを十分に語って、神を喜ぶ生活の準備をしました。そこで、「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」と、感謝の生活に入ります。

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」。「自分をいけにえとせよ」。これは、神が与えてくださった最高のいけにえに対する最高の応え方です。まず神が私たちを愛して、神の独り子を私たちの罪のためのいけにえとしてくださいました。だから、神に感謝の生活をする者は、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」と言われます。

しかし、キリストには、私たちの罪のためにいけにえとなる力もあれば、私たちが自分を神へのいけにえとして生きるよう導く力もあるのです。「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げ」る力が、私たちにあるわけではありません。それはキリストにあるのです。キリストが「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げ」てくださったから、キリスト者も「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げ」ようとするのです。進んでするのです。だから、この生き方自体が礼拝、「これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」。これが、神中心の礼拝的人生観世界観です。

III 神に喜ばれる献身

神中心の礼拝的人生観世界観に生きるには、2節「この世に倣うな」と言われます。

「この世」とは、パウロがこの手紙を書いている時点では古代ローマですが、ギリシャ人も含めて、ギリシャ・ローマの文化人の悪い面です。

神々が人間と破廉恥な行為をするのがギリシャ・ローマの神話ですが、実際のお祭りでは偶像の神々などいないので、人間が破廉恥なことをしていました。お祭り騒ぎに身を任せて、欲望のままに不潔なことをしていたのです。

しかし、そうするのは、ギリシャ・ローマの時代だけでしょうか。いつでもどこでも、そうではないでしょうか。特に文化文明の発達した時代ほど、そうではないでしょうか。現代のアメリカや日本でも、そうではないでしょうか。

「自分の体を、そのような恥ずべき不潔なことに委ねてはならない。ローマ教会のみなさん、また、現代の世界にある教会のみなさん。あなたがたは、神の憐れみによって、聖なるいけにえであるキリストをいただいたのですから、あなたがたも、自分の体を聖なるいけにえとして献げなさい。この世に倣ってははいけません。自分の体を不潔な死んだいけにえとして悪魔に献げてはなりません。生ける真の神に、生けるいけにえとして献げなさい。」

しかし、不潔な世の中で、どうしたら聖なる礼拝的な生き方ができるでしょうか。そのためには、12：2「心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい」。

つまり、礼拝的な生き方ができるためには、礼拝を生活の中心としなさい。「心を新たにして自分を変えていただく」ことができる最高の場は礼拝です。キリストの十字架によって罪の赦しをいただく礼拝です。キリストの復活によって、善き業に励む活力にあずかる礼拝です。罪の告白をし・赦しの宣言をいただき・十戒を唱える礼拝です。

今年のテーマ「新しい出発に備える祈り」は、去年のサブテーマ牧師招聘の祈りを含みますが、去年から続いている新型コロナウイルスの感染が大きく影響しています。パンデミックが収束したならば、新しい自分が出発することも、大きく期待しましょう。

IV 今年の献金袋には、ロマ書12：1が印刷される予定

会員総会後の主日には献金の説教が行われることになっています。きょうは予定では会員総会でありましたが、疫病感染の対策で、集まらずに「仮決議」のスタイルとなりました。きょうは、会員総会主日に行なう年間テーマの説教と共に、献金の説教もしておきます。

さて、献金の内部事情を知るのは執事だけで、執事会は、会員の生活を配慮しながら予算も満たされるようにと、難しい奉仕をしています。去年は新型コロナウイルスの影響で、いちだんと難しくなりました。教会員も経済生活に不安を抱える一年でありました。そのことを配慮して、執事会は収入と支出を工夫しました。去年の献金収入は達成されませんでした。支出も少なくなったので、予算は圧迫されませんでした。

献金は何に使われるかが分かると、喜んで同意する献金となります。分からないと、漠然とした会費や寄付金となってしまいます。定期会員総会資料である『年報』が、今年は郵送その他の方法で届けられました。『年報』から支出項目を具体的に知りましょう。

献金は、隣人愛の行為です。神に献げますが、お金を必要としているのは神ではありません。献金の使い途は、伝道と、伝道に伴う愛の執事活動です。多く献げられる人も、多く献げられない人も、それぞれ最善を尽くすことを誓い合っています。

人生には、順境の時も逆境の時もあります。多く献げられる時もあれば、多く献げられない時もあります。多く献げられる時は、多く献げられない人の分をカバーしています。その関係が逆転する時もあります。それらを配慮しながら予算を満たしていくのが執事の任務です。

執事は、特に愛の行ないにおいて、キリストの職務を代表していますが、執事だけが愛の行ないをするものではありません。私たち教会員の模範なのです。